

第三次宇部市環境基本計画【抜粋版】 (令和4年度～令和13年度)



令和4年(2022年)3月
宇部市

目 次

第1章 計画の基本的考え方と背景

1	計画策定の趣旨	1
2	環境をめぐる国内外の動向	1
3	計画の位置づけ	2
4	計画の対象範囲	3
5	計画の期間	4

第2章 これまでの取組の検証

1	第二次宇部市環境基本計画の進捗状況	5
2	市民及び事業者の意識	10

第3章 望ましい環境像と基本目標・施策の体系

1	計画策定の視点	16
2	本市の目指す望ましい環境像	17
3	基本目標	17
4	施策の体系	19

第4章 施策の展開

基本目標1	地球環境に配慮した暮らしを实践するまち	20
基本目標2	良好な生活環境を守り安心して生活できるまち	25
基本目標3	豊かな自然とその恵みを未来に引き継ぐまち	30
基本目標4	限りある資源を有効利用するまち	36
基本目標5	産官学民が連携し環境配慮社会を構築するまち	40

第5章 地球温暖化対策実行計画（区域施策編）

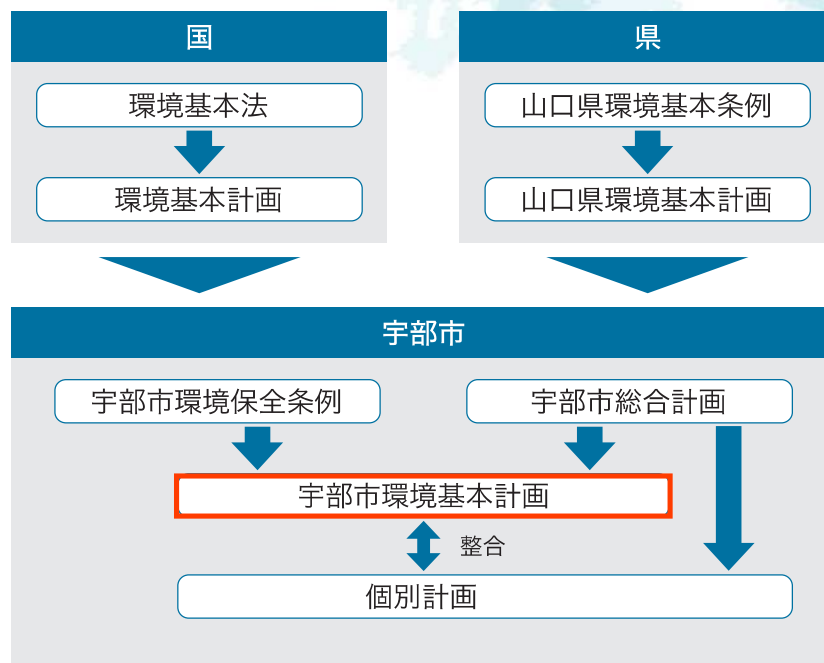
1	温室効果ガス排出量の現状	46
2	温室効果ガス排出量の増減要因	47
3	温室効果ガス排出量の削減目標	52
4	地球温暖化の緩和策と気候変動の影響への適応策	56

第6章 計画の推進体制と進行管理

1	計画の推進体制と役割	58
2	計画の進行管理	59

用語解説	60
------	----

■図 1



4 計画の対象範囲

この計画の対象範囲は、地球環境、生活環境、自然共生、資源循環、地域環境力の5分野とし、身近な地域レベルの環境問題から地球規模の環境問題まで、総合的に捉えていくものとしします。

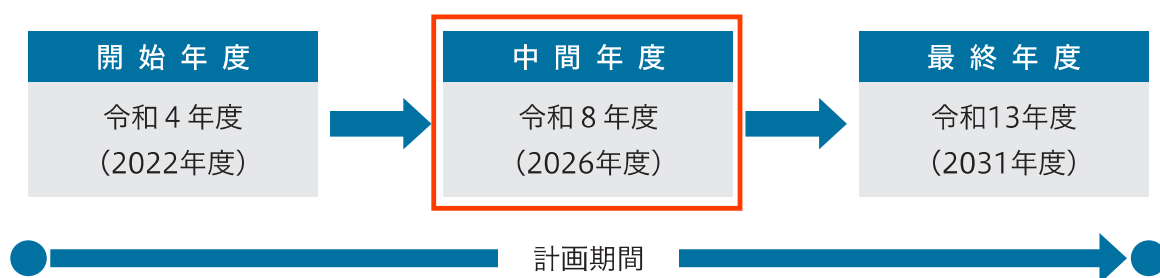
対象分野	対象範囲
地球環境	地球温暖化、気候変動適応、再生可能エネルギー、省エネルギー など
生活環境	大気、水質、騒音・振動、緑地、水辺、景観 など
自然共生	海域、河川、湖沼、森林、生物多様性 など
資源循環	ごみの削減・適正処理、分別・再資源化の推進 など
地域環境力	環境教育、環境学習、環境活動、連携・協働 など

5 計画の期間

本計画の期間は、第五次宇部市総合計画に合わせ、令和4年度（2022年度）から令和13年度（2031年度）までの10年間とします。

また、本計画の中間に当たる令和8年度（2026年度）を目途に、計画の見直しを検討します。

その他、社会経済情勢や環境問題の変化などにより、見直しの必要が生じた場合は、柔軟に対応するものとします。



4 施策の体系

■は重点施策

環境像	基本目標	施策の柱	基本施策
緑と花と彫刻に囲まれた 豊かな自然と住みよい環境が共存する持続可能なまち 宇部	地球環境に配慮した暮らしを実践するまち	地球温暖化防止対策 気候変動適応対策	■再生可能エネルギーの活用 ■省エネルギーの推進 ■低炭素なまちづくりの推進 □気候変動への適応に関する取組
	良好な生活環境を守り安心して生活できるまち	安全な生活環境の確保 良好な都市環境の形成	□大気環境の保全 □水環境の保全 □騒音・振動の防止 □土壌・地盤環境の保全 □化学物質の適正な管理 □清掃・美化活動の推進 □環境に配慮した都市整備 □彫刻を活用した景観形成
	豊かな自然とその恵みを未来に引き継ぐまち	生物多様性の保全 自然と調和した農林水産業の推進	□希少な生き物の生息・生育状況の把握 ■多様な動植物の生息・生育環境の保全 ■自然とふれあう機会の確保 □持続可能な農林水産業の推進
	限りある資源を有効利用するまち	廃棄物の減量・資源化の推進 廃棄物の適正処理の推進	□リデュース（発生抑制）の推進 □リユース（再使用）の推進 □リサイクル（再生利用）の推進 □廃棄物の適正な処理体制の確保 □不法投棄の防止
	産官学民が連携し環境配慮社会を構築するまち	環境学習・教育の推進 連携・協働による環境活動の推進	■環境学習・教育の充実 □環境学習・教育を担う人材の育成 □環境に関する情報の収集と提供 ■多様な主体の参加の促進 □国際環境協力

各基本施策の目標値及び取組内容について、改定いたします。

環境指標と「目指そう値」（目標値）

環境指標	現状値 (令和2年度)	5年後目指そう値 (令和8年度)	10年後目指そう値 (令和13年度)
民生部門での年間 温室効果ガス排出量	533千t-CO ₂	480千t-CO ₂	375千t-CO ₂
公共施設の太陽光 発電導入量	918kW	1,000kW	1,100kW

施策1 再生可能エネルギーの活用 【重点施策】

- 設置可能な公共施設や市末利用地へ太陽光発電設備を率先的に導入します。
- 蓄電池との組み合わせによる自家消費型の再生可能エネルギー導入を推進します。
- 初期費用ゼロや共同購入による太陽光発電設備の導入を促進します。
- 再生可能エネルギーに関する最新の技術動向等の情報を収集し、市民や事業者に普及啓発を行います。

市民・事業者求められる取組

市民に求められる取組

- 自家消費型太陽光発電設備を導入するとともに、蓄電池を活用し、創・蓄エネに取り組めます。
- 再生可能エネルギーの利用を念頭に電力契約を考えます。

事業者求められる取組

- 自家消費型太陽光発電設備を導入します。
- 太陽光発電以外の再生可能エネルギー設備の導入を検討します。
- 化石燃料から再生可能エネルギーへの転換に努めます。
- 電力のグリーン購入に努めます。



太陽光発電



風力発電

第5章「地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」について、各数値の更新のほか、P 5 5の削減目標を改定いたします。

3 温室効果ガス排出量の削減目標

（1）将来推計

◆将来推計（BAUケース）

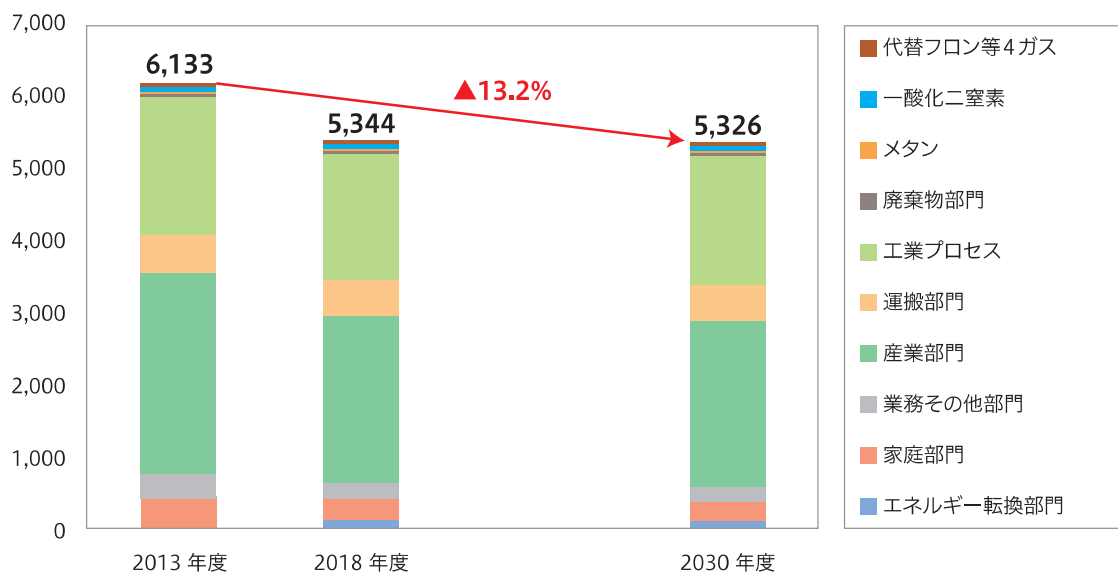
今後追加的な対策を見込まないまま推移した場合の2030年度の排出量（現状趨勢（BAU）ケース）を推計しました。

BAUケースの推計では、生産活動におけるエネルギー消費効率の向上等を考慮せず、温室効果ガス排出量に対して、活動量（生産活動、人口の動態など）のみが変化すると仮定して推計を行いました。

宇部市の温室効果ガス排出量は、基準年度の2013年度から2018年度にかけて12.9%減少しています。今後はさらに人口の減少等が進み、2013年度比で2030年度は13.2%減少する見込みです。

■ 図 9

(千 t-CO₂)



【2030年度温室効果ガス排出量の削減目標】
基準年度（2013年度）比26%の削減を目指します。

【2050年度温室効果ガス排出量の削減目標】
実質排出量ゼロ

国においては、2050年カーボンニュートラル実現に向け、2030年度の削減目標として、2013年度比46%削減を掲げています。本市においては、基幹産業として市内経済を支えている産業部門及び工業プロセス部門からの排出量が大半を占めることから、国の目標達成のためにはこの分野での大幅な削減が不可欠です。

しかしながら、前述の宇部市の削減ポテンシャル量や産業界での大幅なCO₂削減手法が明確に示されていないことから、当面は2013年度比▲26.0%を目指すことを目標としつつ、引き続き事業者との対話を重ねながら、2050年カーボンニュートラル実現に向けて取り組んでいきます。



緑のカーテンによる省エネ



未利用地を活用した大規模太陽光発電



脱炭素技術を取り入れた新庁舎

参考資料

～GX戦略地域の選定に向けた取組～

山口県が実現を目指す姿



✓ 本県コンビナートの持つポテンシャル(業種特性、資産等)を最大限活用し、GXサプライチェーンによる産業集積拠点を形成

コンビナートに求められる役割

脱炭素化の要請

- 世界各国で、排出量削減の規制が導入
- 産業界全体での脱炭素化が必要な状況

高機能製品の需要

- 成長産業における高機能製品の需要の高まり
- 脱炭素化と相まって低炭素な先端素材等が要求

- 製造業の上流に位置するコンビナートを構成する素材産業が「GXの実現」と「競争力強化」に繋がる取組を両立させることが必要不可欠
- 競合の海外メーカーとも競争できるよう国際的な競争力の維持・強化が重要

- 山口県に立地する3つのコンビナートでは、「脱炭素エネルギー」、「炭素循環マテリアル」の供給拠点を目標とした取組を始動
- 現在は、「カーボンニュートラルの実現」と、「世界市場を目指した製品群の展開」に挑戦中
- 加えて、コンビナートを形成する産業の多様性は、国内でも類を見ず、各地域で企業・業種の垣根を超えた連携が加速しており、GX転換に向け、着実に歩みを進めているところ

山口県が実現を目指す姿

- ▶ 山口県は、コンビナートのGX転換に向けた動きを加速させ、日本の産業構造や産業立地の改革モデルとするため、GX時代に求められるコンビナートへの転換に繋げる新たな産業戦略を打ち出し、国の経済支援や規制・制度改革も活用しながら、
◆ GXコンビナートへの構造転換、GX産業の創出・集積
◆ より強靱なGXサプライチェーンの構築
を目指し、製造業のGXを牽引、世界のGXに貢献する。

山口県が実現を目指す姿

1 GXによる既存産業の構造転換

クリーンエネルギー導入によるエネルギーの脱炭素化、非化石資源の原料導入による素材のカーボンニュートラルの実現に加え、GX新事業創出によるポートフォリオ転換

2 国内外からのGX新産業の集積

コンビナートとともにGX新事業創出を目指すスタートアップ等の呼び込みによるGX新産業の集積

3 GXサプライチェーンによる産業集積拠点の形成

GXコンビナートとGX新産業が結合したGXサプライチェーンによる競争力を持つ産業集積拠点の形成

GXコンビナートへの転換～宇部・山陽小野田地域～



クリーンな原燃料の製造・供給、GX技術・製品の実証・量産のためのフィールドの提供により、国内外のスタートアップ等にとって魅力的な新産業育成拠点の形成やGXサプライチェーンの構築を図る。

地域形成に向けた初期構想

凡例:

GX-PJ

基盤整備

中期展開

- アンモニアなどクリーンな原燃料の製造・供給
▶ アンモニア製造・サプライチェーン形成

クリーンアンモニア製造

LNG転換によるクリーン原燃料供給

アンモニア誘導品製造

▶ 産業連携・官民連携による資源循環拠点の形成

ソーティングセンター整備

タイヤケミカルリサイクル

FAME-バイオ燃料製造

官民連携資源循環拠点形成

リサイクル原燃料供給



○: GX関連事業の実施を検討している範囲

- GX技術・製品の実証・量産のためのフィールドの提供
▶ 遊休地の整備による産業用地の創出

実証・量産フィールドの形成

地盤改良ソリューション

実証・スケールアップ拠点